

## 平成 19 年度第 1 四半期決算に係る財務諸表及び収支計算書について

## 1. 再資源化預託金等特別会計

## 【財務状況】

## ① 貸借対照表について

「再資源化等預託金」は前年同期比 1,945 億円増加の 7,072 億円、「情報管理預託金」は前年同期比 44 億円増加の 122 億円となった。これにより、「再資源化預託金等特定資産」も前年同期比 2,362 億円増加の 7,175 億円(有価証券 7,106 億円、預貯金 69 億円)となったが、その反面、期末に於ける預託金預り収入の減少に伴い(※)、「未収入金」は 151 億円と前年同期比 273 億円減少している。したがって、資産合計は前年同期比 2,088 億円増加の 7,326 億円となり、負債合計も同額の 7,326 億円という結果となった。

(※) 4～6 月の「預託金預り収入」を比較した場合、当期は前期よりも約 65% 減少している。

## ② 正味財産増減計算書について

有価証券及び預貯金の受取利息である「特定資産運用益」と、これに対する費用「支払再資源化預託金等利息」は 20 億円の実績となった。また、出えんに係る収益である「特定再資源化預託金等出えんのための負債の減少額」と、これに対する費用「承認・認可済特定再資源化預託金等特別会計への繰出額」は 1 億円の実績である。その結果、収益・費用の合計はともに 21 億円となった。

## 【収支状況】・・・ 資料 3-3 参照

- ① 預託台数(新車・継続・引取)は、前年同期比 547 万台減少の 264 万台となったため、「再資源化等預託金預り収入」は前年同期比 499 億円減少の 270 億円、「情報管理預託金預り収入」は前年同期比 12 億円減少の 5.9 億円の実績となった。
- ② ASR・エアバッグ類・フロン類・情報管理預託金の払渡台数が、94 万台・25 万台・78 万台・106 万台とそれぞれ前年同期比 8 万台・8 万台・7 万台・8 万台増加したため、「再資源化等預託金払渡支出」は前年同期比 8 億円増加の 76 億円、「情報管理預託金払渡支出」は前年同期費 0.1 億円増加の 1.7 億円の実績となった。

- ③ 中古車輸出返還台数は 18 万台と前年同期比 14 万台増加したため、「再資源化預託金等輸出返還支出」は前年同期比 14 億円増加の 18 億円の実績となった。

## 2. 承認・認可済特定再資源化預託金等特別会計

### 【財務状況】

- ① 正味財産増減計算書について

情報管理センター(電子マニフェスト事業・書面利用移動報告事業等)に対する「特定再資源化預託金等出えん費」は 1 億円の実績となった。

### 【収支状況】

- ① 出えん金の「特定再資源化預託金等出えん支出」は 1 億円の実績となった。

## 3. 資金管理料金特別会計

### 【財務状況】

- ① 貸借対照表について

「現金預金」は正味財産の増加等により、前年同期比 28 億円増加の 66 億円となったが、その反面、期末に於ける資金管理料金収入の減少に伴い、「未収入金」は 9 億円と前年同期比 13 億円減少している。

「未払金」は期末に於ける委託手数料支出の減少等に伴い、7 億円減少の 8 億円となった。また「預り金」は、預託金のうち、メーカー徴収 6 月末入金分の資金移動が翌月初となったことにより、7 億円増加の 8 億円となった。

その結果、資産合計は前年同期比 14 億円増加の 79 億円、負債合計は前年同期比 1 億円減少の 18 億円となった。

- ② 正味財産増減計算書について

「資金管理料金収益」11 億円を含め、収益合計は 16.5 億円の実績となった。これに対し、費用合計は 19.1 億円(事業費 18.8 億円、管理費 0.3 億円)となり、当期の正味財産増減額は -2.6 億円の実績であった。

【収支状況】・・・ 資料 3-6 参照

- ① 預託台数の減少に伴い「資金管理料金収入」は 26 億円減少し、前期 37 億円に対して当期 11 億円の実績となった。
- ② 事業活動支出は 13 億円減少し、前期 32 億円に対して当期 19 億円の実績となった。

以上